

# 福島第一原子力発電所の 廃止措置等に向けた現状の取組み

平成26年8月20日

東京電力株式会社

# 1. 廃止措置等に向けたロードマップ全体イメージ

2011年12月に策定された目標

2011年12月

安定化に向けた取組

2013年12月

第1期  
使用済燃料プール内の燃料  
取り出し開始までの期間

2021年12月

第2期  
燃料デブリ取り出しが開始されるまでの期間

2041年～2051年

第3期  
廃止措置終了までの期間

## 廃止措置に向けた作業ステップの概略

使用済燃料プール  
からの燃料取り出し

### 瓦礫撤去、除染

1号機はカバーの解体へ向けて準備中。  
2号機は建屋内の除染や遮へいのための調査を実施中。  
3号機は燃料取り出し用カバー設置へ向け、燃料プール内のガレキ撤去作業中。

除染  
ロボット



### 燃料取り出し 設備の設置

建屋カバー（コンテナ）、燃料取扱機の設置など。



3号機のイメージ

### 燃料取り出し

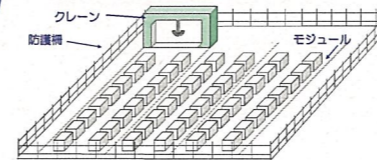
4号機にて2013年11月18日に開始。2014年12月末までに取り出し完了予定。



4号機の実施状況

### 保管／搬出

取り出した燃料は、共用プールへ移動・保管します。その後、乾式のキャスクに移し、敷地内の保管施設にて一時保管を行います。

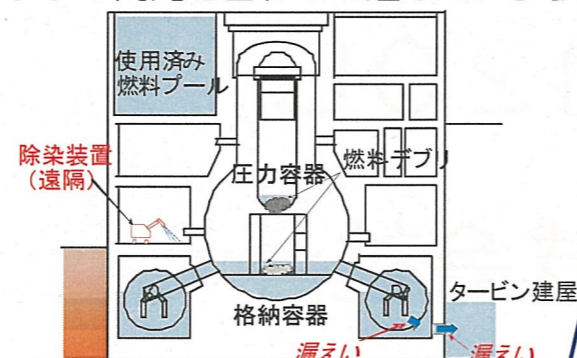


デブリ（語源:フランス語）  
直接の意味は「破片・瓦礫」  
燃料デブリは、燃料と燃料を覆っていた金属の被覆管などが溶け、再び固まったものを指します。  
宇宙空間に漂うゴミなどは「スペースデブリ」と呼ばれています。

燃料デブリ※  
取り出し

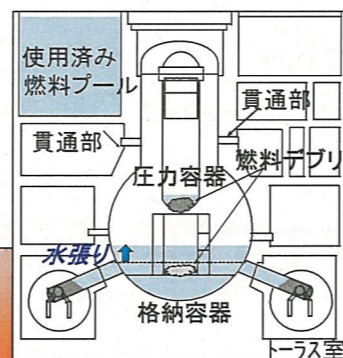
### 建屋の除染、漏えい箇所調査

原子炉建屋等の除染を行うロボットの開発を進め、現在実機にて実証試験を行っています。格納容器の漏水箇所を調査するロボットの開発も合わせて進めています。



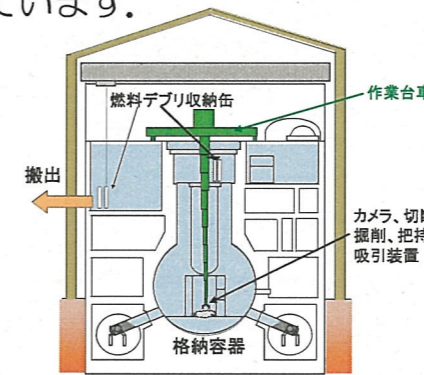
### 止水、水張り

溶けた燃料を安全に取り出すため、遮へい効果のある「水」で満たす事が必要で、重要な作業です。



### 燃料デブリ取り出し

専用の取り出し装置を開発し、燃料デブリを取り出します。海外の知見などの叢智を結集し、実施に向けた検討を行っています。



### 保管／搬出

燃料デブリは専用の収納缶に収められる予定ですが、その後の保管方法などについて、現在検討中です。

原子炉施設の解体等

シナリオ  
・技術の検討

設備の設計  
・製作

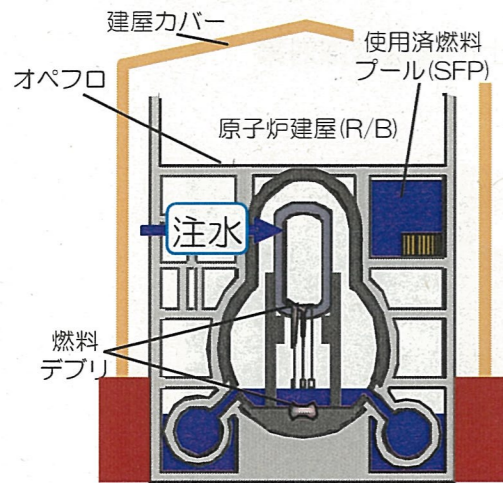
解体等

※燃料デブリ： 燃料と、燃料を覆っていた金属の被覆管などが溶け、再び固まったものを指します。

# 2. 使用済燃料プールからの燃料取り出しに向けた取組み

## 1号機

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	オペフロ状況調査			
	建屋カバー解体準備			
		建屋カバー解体		
		リスク・課題 放射性物質の飛散防止	ガレキ撤去（検討中）	
				燃料取り出し（検討中）
			燃料取り出し建屋・設備設置（検討中）	



燃料プール温度 (平成26年8月18日)	28.5℃
冷却が停止した場合の温度上昇率 (震災時)	3.4℃/日 (評価値)
冷却が停止した場合の温度上昇率 (平成26年8月18日)	1.5℃/日

建屋カバー内の原子炉建屋上部（オペフロ）<sup>(注)</sup>には、今も瓦礫が堆積しており、使用済燃料プールからの燃料取り出しに向け、オペフロのガレキ撤去が必要です。ガレキ撤去に先立ち、1号機に設置した建屋解体の準備をしています。



建屋カバー設置前の状況



建屋カバーの設置状況

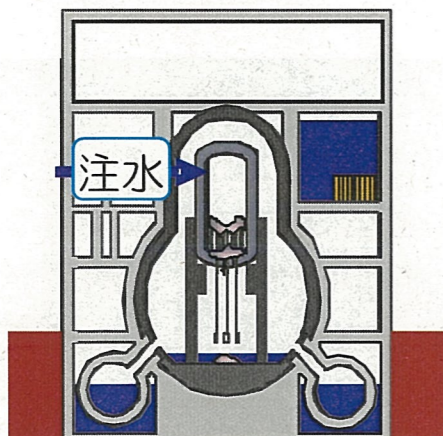


建屋カバー内の状況

## 2号機

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	オペフロ調査等			
		オペフロ除染・遮へい・燃料取扱設備復旧（検討中）		
		リスク・課題 オペフロの線量低減対策		
				燃料取り出し（検討中）

オペフロの調査を終了し、燃料取り出しの方法を検討しています。



燃料プール温度 (平成26年8月18日)	27.0℃
冷却が停止した場合の温度上昇率 (震災時)	9.9℃/日 (評価値)
冷却が停止した場合の温度上昇率 (平成26年8月18日)	3.6℃/日



2号機原子炉建屋



オペフロ調査状況



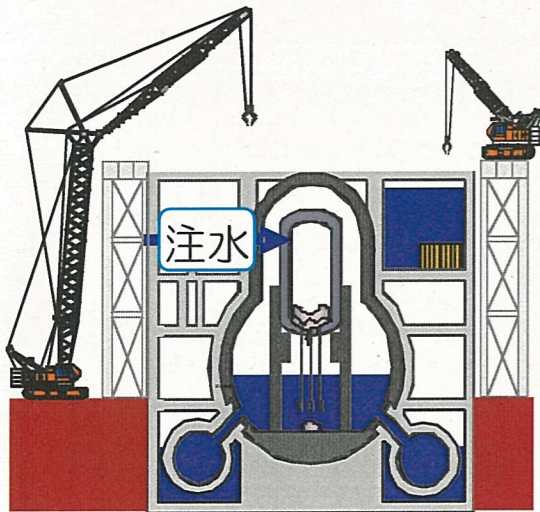
オペフロ調査状況

(注) オペレーティングフロア(オペフロ)：定期検査時に、原子炉の蓋を開放し、炉内燃料取替や炉内構造物の点検等を行うフロア。

## 2. 使用済燃料プールからの燃料取り出しに向けた取組み

### 3号機

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	ガレキ撤去			
	オペフロ除染			
	プール内ガレキ撤去		燃料取り出し	
	リスク・課題 重量物落下による使用済燃料損傷	燃料取り出し建屋・設備設置		



燃料プール温度 (平成26年8月18日)	26.3℃
冷却が停止した場合の温度上昇率 (震災時)	7.5℃/日 (評価値)
冷却が停止した場合の温度上昇率 (平成26年8月18日)	2.7℃/日

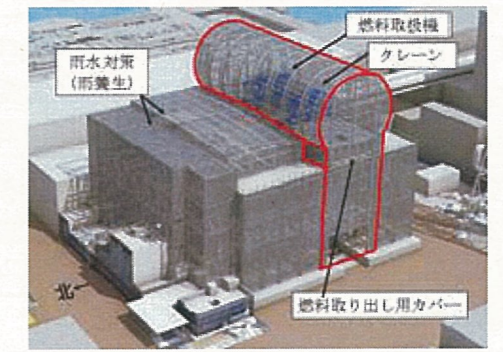
平成25年10月15日より、燃料取り出し用カバーや燃料取扱設備の設置作業に向け、オペフロ上の線量低減対策（除染、遮へい）を実施しています。  
また、平成25年12月17日より、使用済燃料プール内のガレキ撤去を実施しています。



ガレキ撤去前



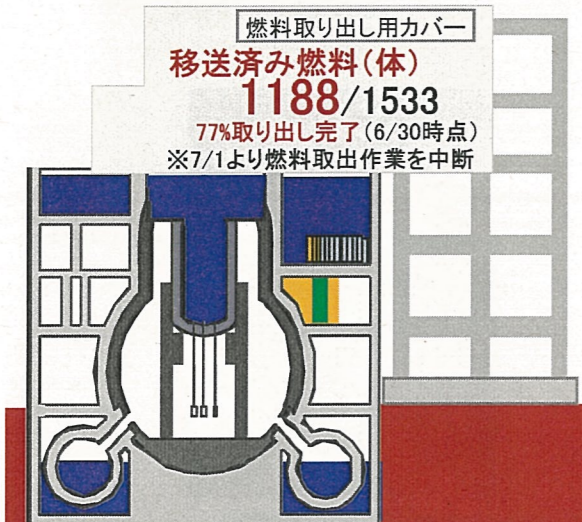
ガレキ撤去後



燃料取り出し用カバーイメージ

### 4号機

平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	燃料取り出し建屋・設備設置			
	燃料取り出し			
	リスク・課題 作業員の被ばく低減			



燃料プール温度 (平成26年8月18日)	25.3℃
冷却が停止した場合の温度上昇率 (震災時)	34℃/日 (評価値)
冷却が停止した場合の温度上昇率 (平成26年8月18日)	0.7℃/日

平成25年11月18日より4号機使用済燃料プールからの燃料取り出しを開始しました。  
4号機は、平成26年末頃の燃料取り出し完了を目指し作業を進めています。



ガレキ撤去前



ガレキ撤去後



燃料取出カバー設置後

(注) オペレーティングフロア(オペフロ)：定期検査時に、原子炉の蓋を開放し、炉内燃料取替や炉内構造物の点検等を行うフロア。

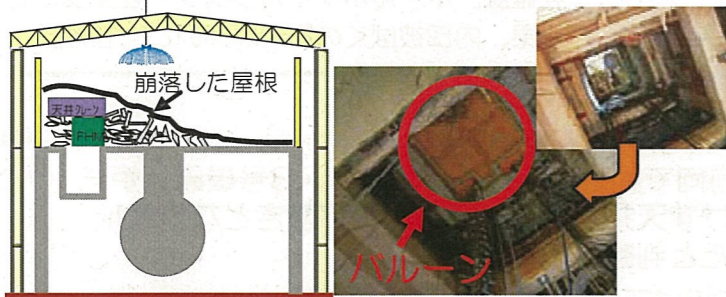
# 3. 1号機建屋カバー解体・ガレキ撤去

【目的】1号機の使用済燃料プールから燃料を取り出すため、現在設置している建屋カバーを解体し、内部のガレキを撤去した上で、新たに燃料取り出し建屋を設置する必要があります。  
 【課題】解体・撤去作業時には、微量の放射性物質が敷地外に飛散するおそれがあります。  
 【方針】当社は、可能な限りの飛散抑制対策を講じると共に、放射性物質濃度の監視を強化し、タイムリーな情報発信とデータ公開に努めて参ります。

## 1号機建屋カバー解体時のダスト飛散抑制対策

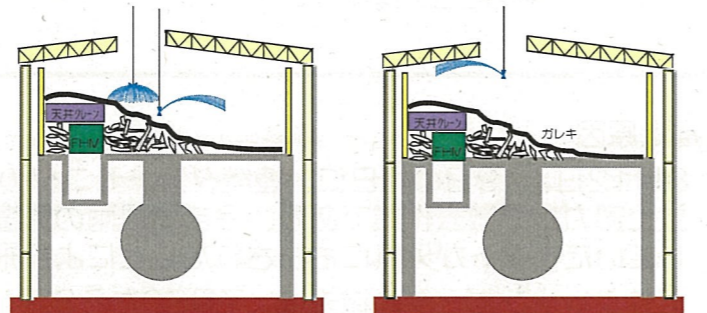
- 原子炉建屋からの放射性物質の放出量は、建屋カバー設置前に比べ1/100以下に低下していますが、建屋カバー解体・ガレキ撤去時には、放射性物質の十分なダスト飛散抑制対策を行いながら、着実に進めます。
- 屋根パネルの取り外し前に、原子炉建屋内の開口部（例：機器ハッチ）にバルーンを設置し、開口面積を縮小し、オペフロへの空気の流入量を低減します。屋根パネルの解体後に防風シートを設置して、空気の流入を低減します。
- 飛散防止剤を散布しダスト（放射性物質）を固着させます。壁パネル解体前にガレキ・ダスト吸引装置を設置します。
- ダストモニタが上昇傾向もしくは発報した時に、ダストの舞い上がりを抑制するための散水設備の準備を進めています。

### ①屋根パネル取り外し前



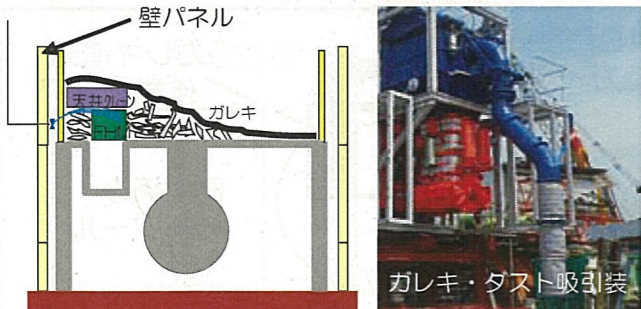
建屋カバー解体前に屋根パネルに孔をあけ、ガレキ上面に飛散防止剤を散布  
 屋根パネル取り外し前に、バルーンを設置し、オペフロへの空気の流入量を低減

### ②屋根パネル解体



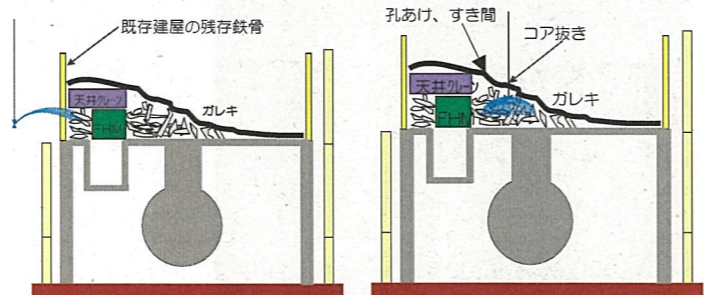
屋根パネル解体にあわせ、順次、ガレキに飛散防止剤を散布  
 解体部材の取り外し前に飛散防止剤を散布

### ③壁パネル解体前



壁パネル解体前に壁パネルに孔をあけ、側面からガレキに飛散防止剤を散布  
 壁パネル解体着手前に、屋根上に散乱しているダスト等を吸引する

### ④壁パネル解体



壁パネル解体にあわせ、順次、側面からガレキに飛散防止剤を散布  
 崩落した屋根に隠れているガレキに飛散防止剤を散布

### ⑤散水設備（準備中）



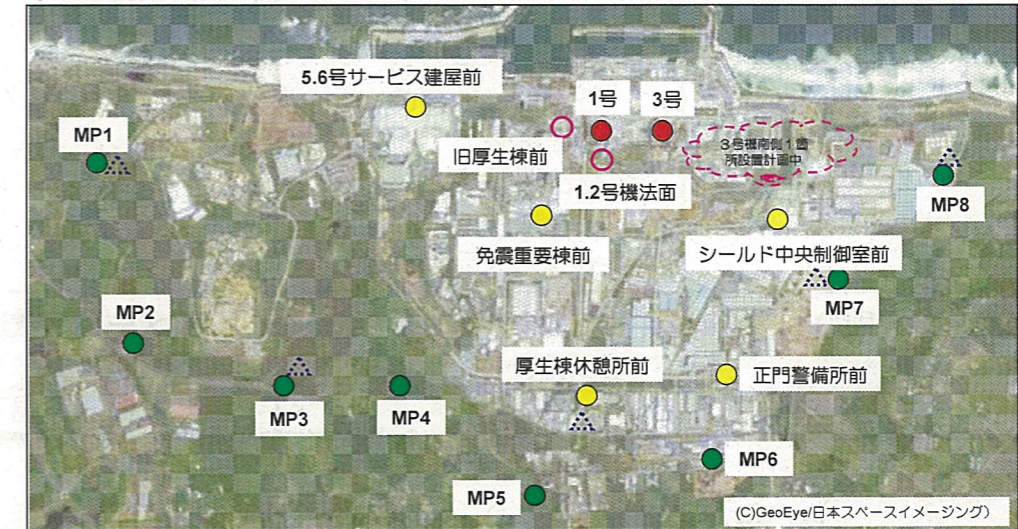
- ・ 湿潤状態を維持するために散水を行います(間欠)
- ・ ダストモニタが上昇傾向もしくは発報した時に、散水を行います(緊急)
- ・ 現在、設置について準備中

## 放射性物質濃度の監視体制の強化

- 3号機での状況を踏まえ、オペフロ上および原子炉建屋近傍での放射性物質濃度の監視体制を強化しています。

【放射性物質濃度の監視体制】

- オペフロ上のダストモニタで監視（1, 3号機各4箇所）
- 原子炉建屋近傍の可搬型連続ダストモニタで監視（2箇所）
- 構内の可搬型連続ダストモニタで監視（5箇所）
- 敷地境界におけるモニタリングポスト（8箇所）
- △ 敷地境界付近における可搬型連続ダストモニタ（5箇所）による監視（計画中）
- 3号機南側に可搬型連続ダストモニタ（1箇所）で監視（計画中）



## ガレキ撤去作業時の飛散抑制対策の比較（3号機と1号機）

- 3号機での状況を踏まえた1号機の対策について、表で比較しました。

		3号機		1号機
		事象発生前	事象発生後	
飛散防止剤	希釈濃度	1/100	1/10	1/10
	散布量	約25kg/日	約300kg/日	約360kg/日
	頻度	瓦礫撤去作業範囲に作業開始前に散布	当日の瓦礫撤去作業範囲に作業開始前・終了後に散布	左記に加え、瓦礫切断など放射性物質が上昇する可能性がある作業直前に散布する他、原則1回/月に全面に散布
	作業時散水	無	無	有
	局所排風機	無	無	有
	防風シート	無	無	有
	散水設備	無	無	有
	その他	無	無	建屋上部エリアに通じる3階機器ハッチ開口部にバルーンを設置し、開口部の面積を縮小

# 3. 1号機建屋カバー解体・ガレキ撤去

## 作業に関する情報公開

■ 建屋カバー解体作業時には、自治体、地域・一般の皆さま、報道関係者の皆さまに対し、作業の内容やトラブルの発生状況等について、きめ細かく情報を公開して参ります。

対象	自治体	地域・一般の方々	報道関係者
情報の種類	通報連絡	当社ホームページ	一斉メール/記者会見
作業の全体概要	・各自治体へ個別に説明	・作業概要解説 ・飛散抑制対策 ・放射性物質濃度監視体制	・記者レク、会見で説明
日々の作業状況	<放射性物質の舞い上がりの可能性がある作業> ・前日、事前通報 ・当日、作業実績通報 ・翌週作業予定 など	・作業日報 当日の作業実績 翌日の作業予定 モニタリングの測定結果 ・翌週作業予定 ・1号作業映像 (ライブカメラ配信)	・作業日報を記者レク、 会見で説明 ・翌週作業予定
トラブル発生状況	・通報区分に則り、 通報連絡	・一斉メールの内容を掲載 ・資料掲載	・一斉メールで状況を 継続的に発信 ・記者レク、会見で説明

## 昨年発生した、3号機ガレキ撤去時のダスト濃度上昇

### ■ 事象の概要

平成25年8月12日12時33分頃および同年8月19日10時4分頃に免震重要棟前に設置してある連続ダストモニタで、放射能濃度が高いことを示す警報が発生し、免震重要棟前にいた作業員に身体汚染が発生しました。

### ■ 時系列（平成25年8月12日）

12時33分頃 連続ダストモニタ(B) 高高警報発生  
12時39分頃 連続ダストモニタ(A) 高高警報発生  
13時02分頃 一斉放送：マスク着用指示を実施

### ■ 免震棟前ダストサンプリング結果

14時10分～14時30分：  
・Cs-134：7.3×10<sup>-7</sup>Bq/cm<sup>3</sup>  
・Cs-137：1.5×10<sup>-6</sup>Bq/cm<sup>3</sup>

### ■ 身体汚染の発生

10時20分頃 構内バスに乗車した協力企業3名のうち、2名の身体汚染を確認。ホールボディカウンターを受検した結果、内部被ばくの影響が無いことを確認。

### ■ 時系列（平成25年8月19日）

09時29分頃 連続ダストモニタ(B) 高警報発生  
09時34分頃 連続ダストモニタ(A) 高警報発生  
10時04分頃 連続ダストモニタ(A) 高高警報発生  
10時15分頃 一斉放送 マスク着用指示を実施

### ■ 免震棟前ダストサンプリング結果

09時50分～10時10分：  
・Cs-134：2.6×10<sup>-4</sup>Bq/cm<sup>3</sup>  
・Cs-137：5.8×10<sup>-4</sup>Bq/cm<sup>3</sup>

### ■ 身体汚染の発生

13時08分頃 構内バスに乗車した当社社員12名と協力企業4名のうち、当社社員10名の身体汚染を確認。ホールボディカウンターを受検した結果、内部被ばくの影響が無いことを確認。

### ■ 推定原因

8月12日、19日の両日に、連続ダストモニタの風上方向で実施されていた作業は、3号機原子炉建屋上部ガレキ撤去作業であり、今まで風雨の影響を受けず天井クレーンガーダの下敷きとなり堆積していたダストが外気にさらされたことにより飛散したと判断しました。

天井クレーンガーダの撤去は、7月30から8月12日に掛けて5分割に行われていました。また平行して、8月10日から8月19日に掛けて天井クレーンガーダ下のガレキ撤去作業が行われています。

### A. 当社HP



当社HPに解説ページを設け、作業概要、作業実績やモニタリング結果等を掲載

### B. ライブカメラ



1号機原子炉建屋の外観を、HPでリアルタイムに映像配信

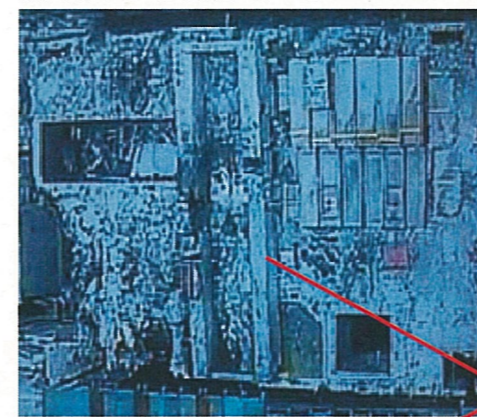
### C. 記者会見



敷地外への影響の可能性が確認された場合は、臨時会見を開催し、状況をご説明（一般の皆さまも、当社HPにて視聴いただけます）

(注) A～Cともに画像はイメージ

### 撤去前の3号機オペフロ

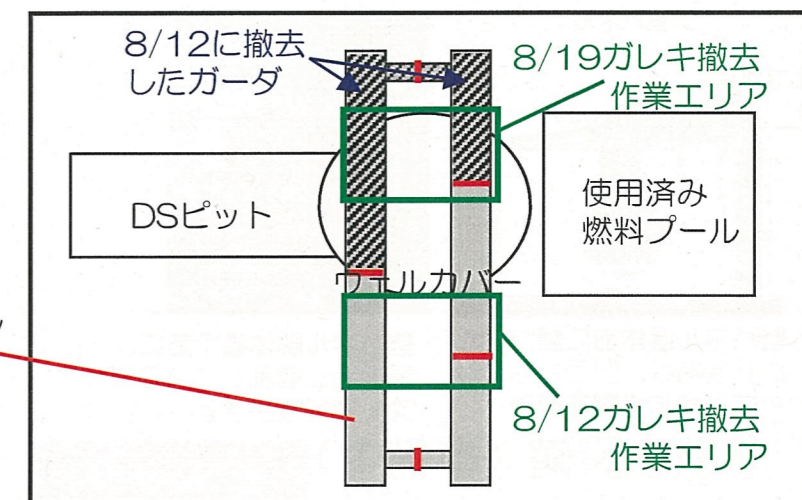


天井クレーンガーダ



4号機に新たに設置した天井クレーン

### 8/12および8/19の作業実績



8/12 クレーンガーダの撤去とガレキ撤去  
8/19 ガレキ撤去のみ

# 4. 3号機オペフロ線量低減、使用済み燃料プール内大型ガレキ撤去

【目的】 3号機の使用済み燃料取り出しに向けて、原子炉建屋上部のガレキの撤去を完了し同所の除染と使用済み燃料プール内のガレキ撤去を実施する必要があります。

【課題】 プール内には大型の重量物が存在しており、撤去時にプール内の使用済み燃料を損傷させてしまうリスクがあります。

【方針】 ガレキ撤去においては慎重に作業を実施し、社会の皆さま・作業に従事する皆さまの安全を最優先にしながら進めます。

## 使用済み燃料プール内ガレキ撤去状況

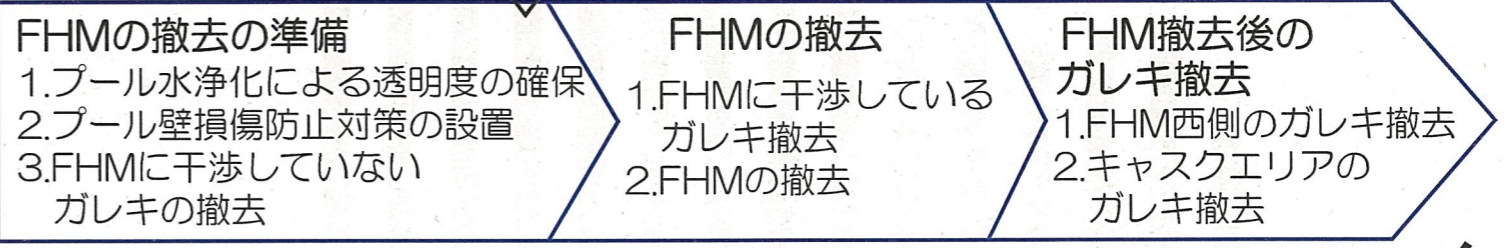
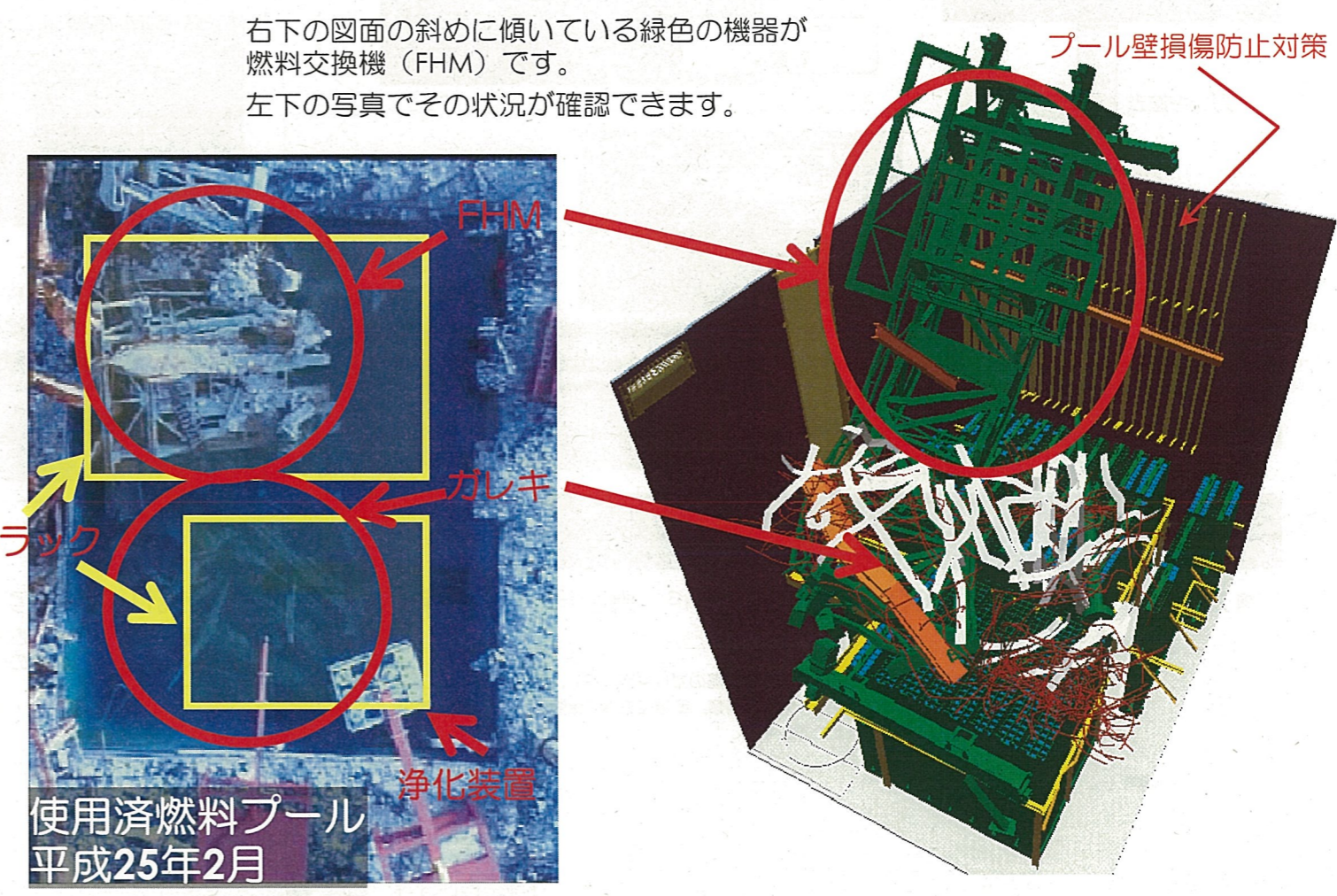
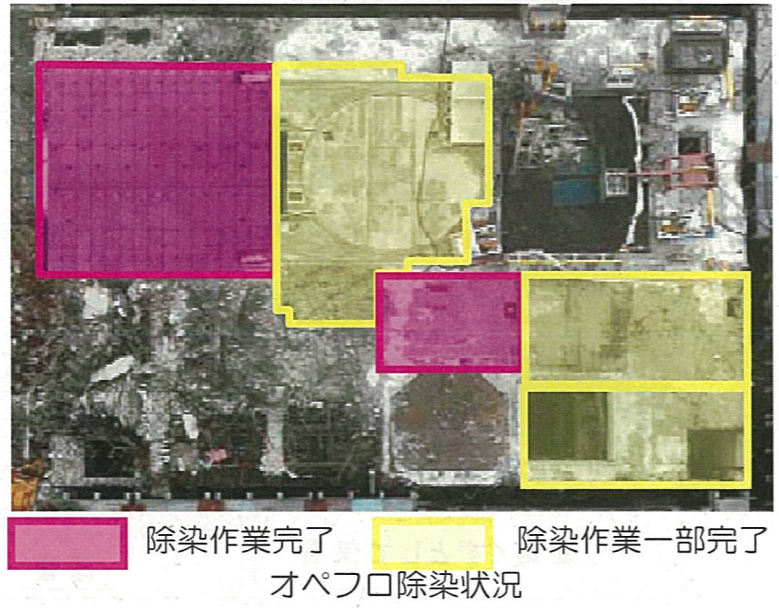
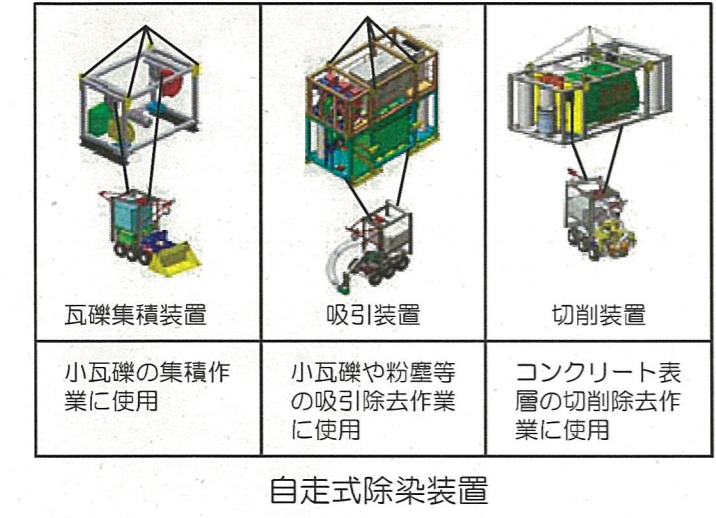
- 3号機使用済み燃料プールからの燃料取り出しに向け、使用済み燃料プール内のガレキ撤去を平成25年12月より開始しています。
- 平成26年3月までにプール内に落下した燃料交換機（FHM）に干渉している鉄筋等の撤去をほぼ完了しました。浄化装置を用いて、プール水浄化により透明度を確保しました。
- プール水の透明度を確保し、燃料取出の支障となるガレキを原子炉建屋カバー設置前に600 t クレーン等を用いて撤去します。
- FHMは大型の重量物であり、今後、慎重に撤去作業を実施します。

## オペフロ上部のガレキ撤去状況



## オペフロ上部の除染状況

- 3号機のオペフロは線量が高く、人による作業が困難であることから、遠隔操作できる重機・除染装置を用いて除染作業を行っています。
- 一部のエリアにおいて予定していた除染作業が完了したことから、除染効果を確認した結果、除染前の線量と比較し、約1/3に低減しました。
- なお、線量の低減効果が十分でないことから、追加の除染・遮へい対策を検討しています。

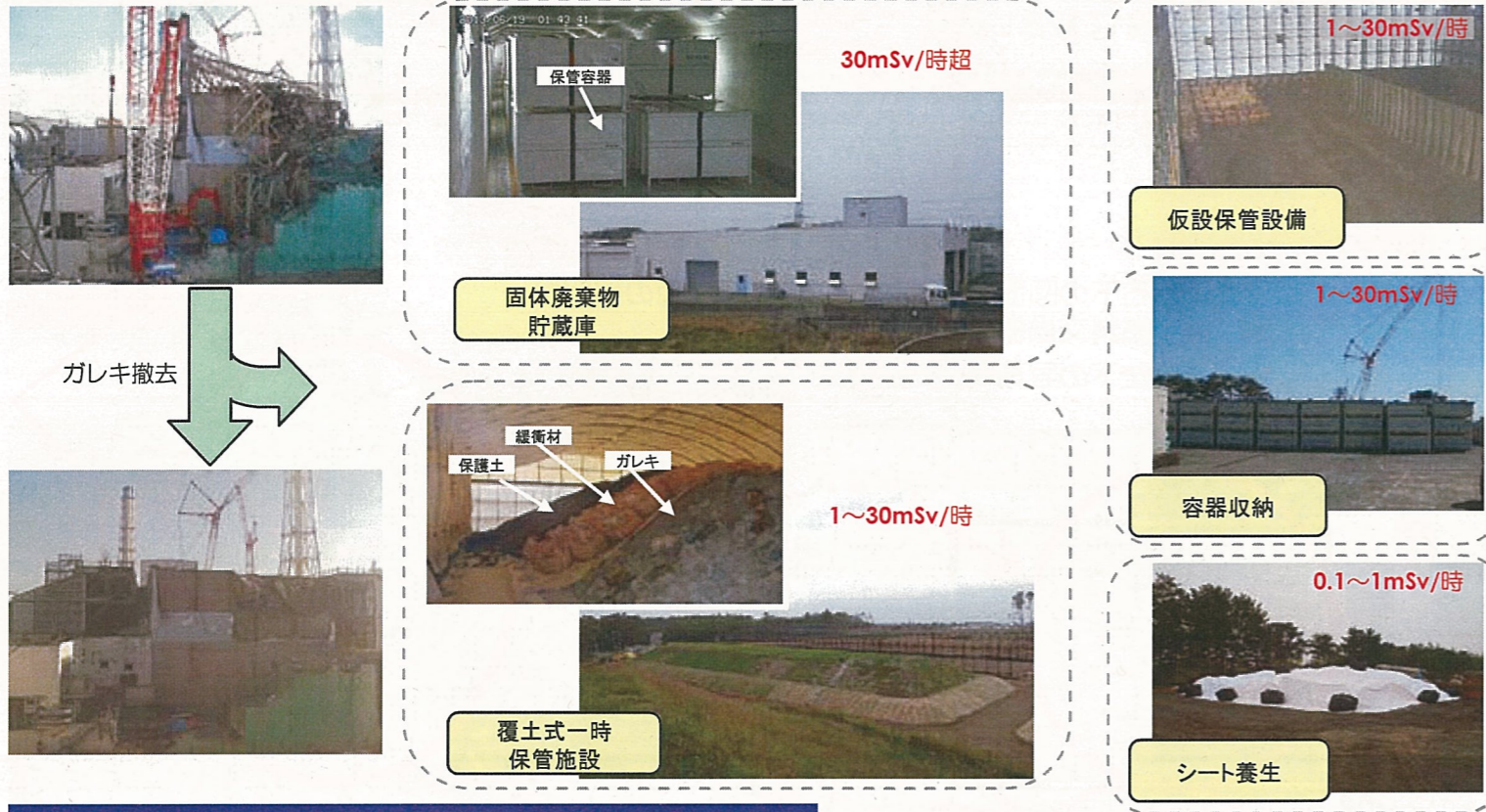


# 5. 廃棄物の管理について

■ 工事の進捗により発生するガレキ等については、分別・減容を行った上で、信頼性の高い固体廃棄物貯蔵庫などに保管し、適切に管理していく予定です。

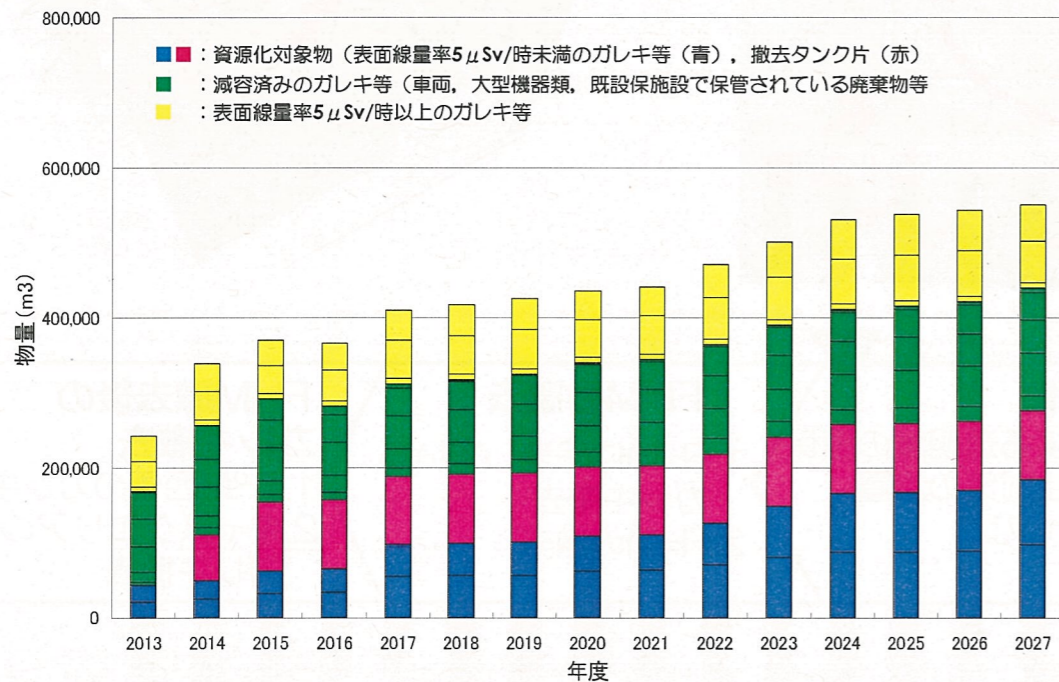
## 現在の保管状況（一時保管）

■ 工事の進捗により構内で発生したガレキは、その線量に応じて分別し、保管しています。



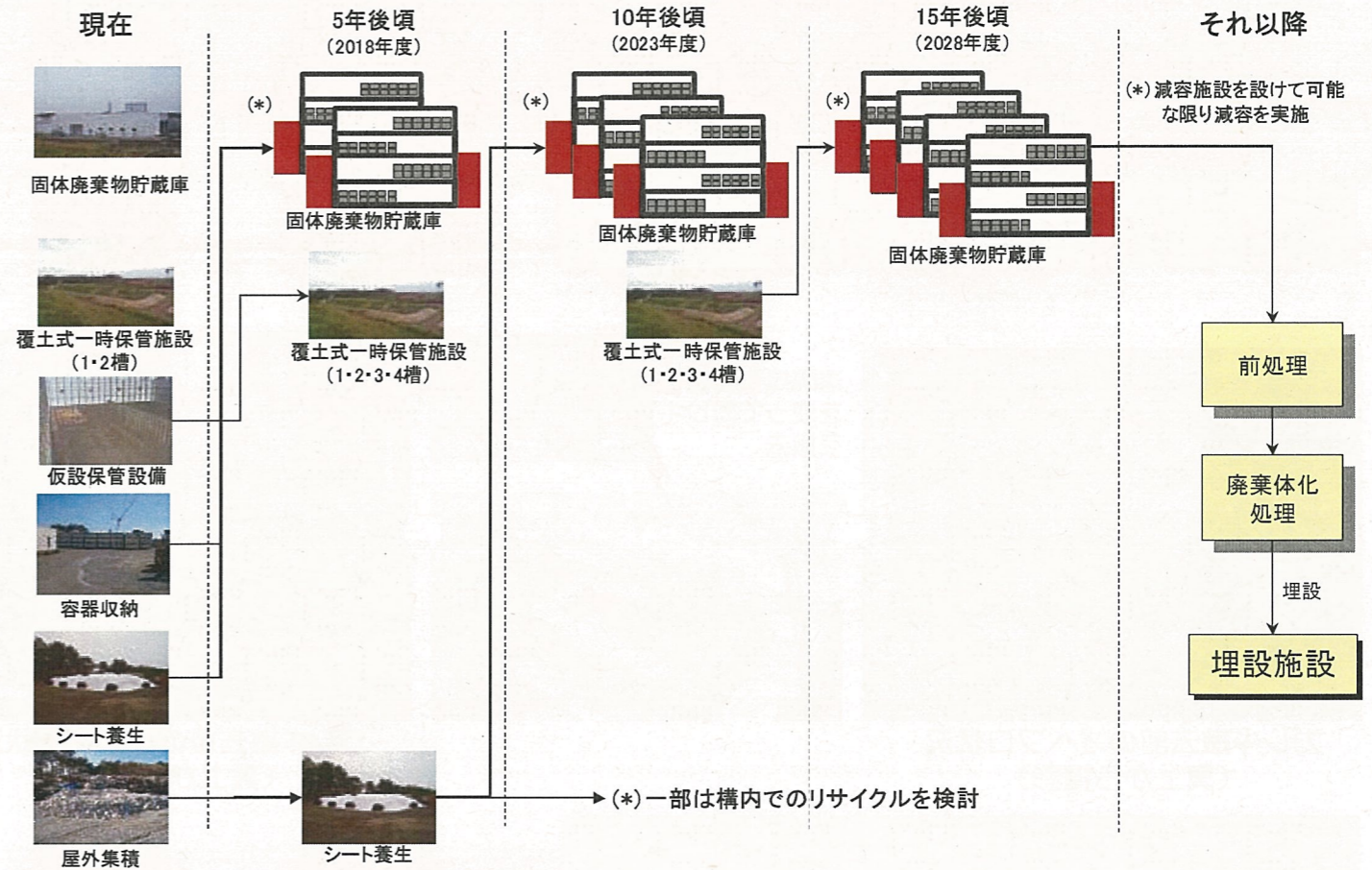
## ガレキ等発生量の推移

■ ガレキ等の発生量は、2027年に約56万m<sup>3</sup>（東京ドームの約半分）※に達すると推計しています。



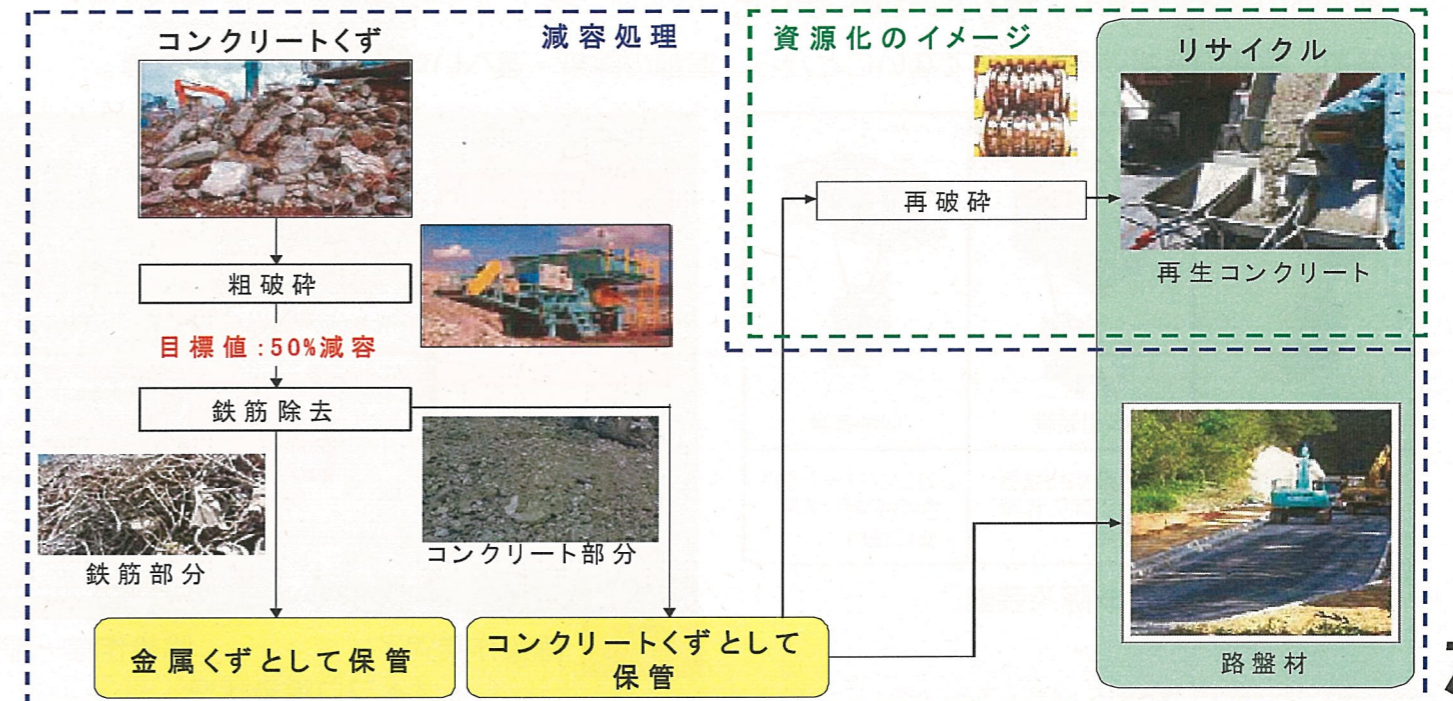
## 今後の保管イメージ

■ 一時保管しているガレキ等は、より信頼性の高い固体廃棄物貯蔵庫に保管していきます。



## 減容処理と資源化のイメージ（コンクリートの例）

■ 発生したガレキ等は減容処理を進めることに加え、ごく低線量のコンクリートなどについては、資源化していくことを検討しています



# 福島第一原子力発電所 汚染水対策の概要

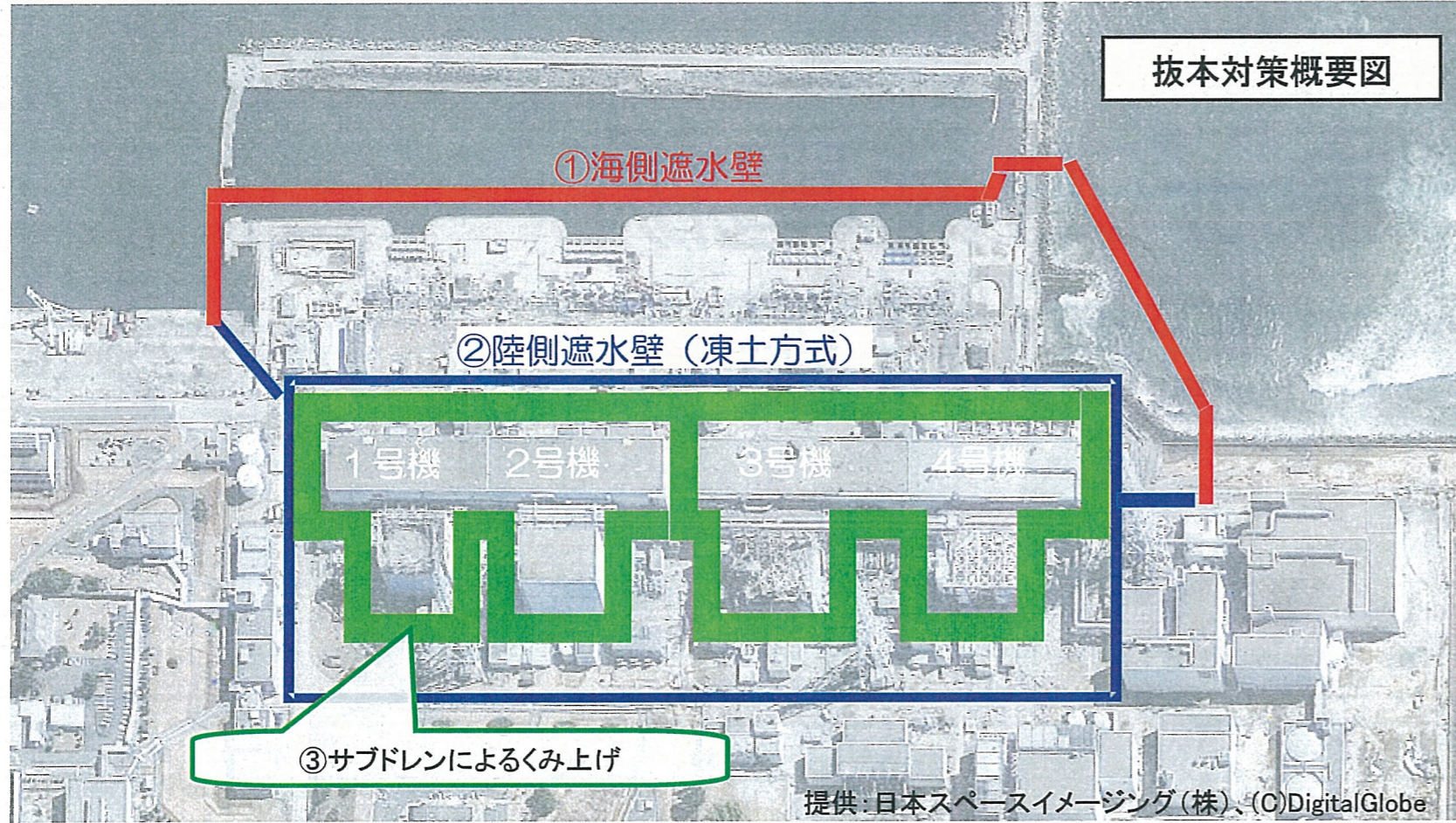
平成26年8月20日

東京電力株式会社

# (1) 汚染水対策の概要<抜本対策>

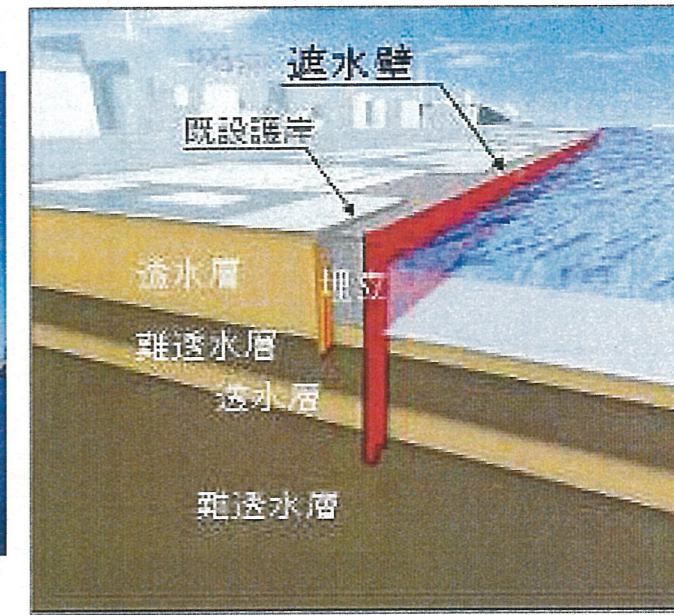
汚染水の抜本的解決を目指して「海洋流出の阻止」「汚染水増加抑制・港湾流出の防止」「原子炉建屋等への地下水流入の防止」を目的として今後1～2年をかけて3つの対策に取り組んでまいります。

- 対策①** 海洋流出の阻止 ..... 海側遮水壁の設置【漏らさない】
- 対策②** 汚染水増加抑制・港湾流出の防止 ... 陸側遮水壁(凍土方式)の設置【近づけない】【漏らさない】
- 対策③** 原子炉建屋等への地下水流入抑制 .. サブドレンからの地下水くみ上げ【近づけない】



## 対策① 海洋流出の阻止・・・海側遮水壁の建設

- ・護岸海側にて2012年5月より建設を開始、2014年9月の完成を目指しています。
- ※遮水壁により止められた溜まり水のくみ上げが必要となりますが、揚水井設置で対応してまいります。



## 対策② 汚染水増加抑制・港湾流出の防止・・・陸側遮水壁(凍土方式)の設置

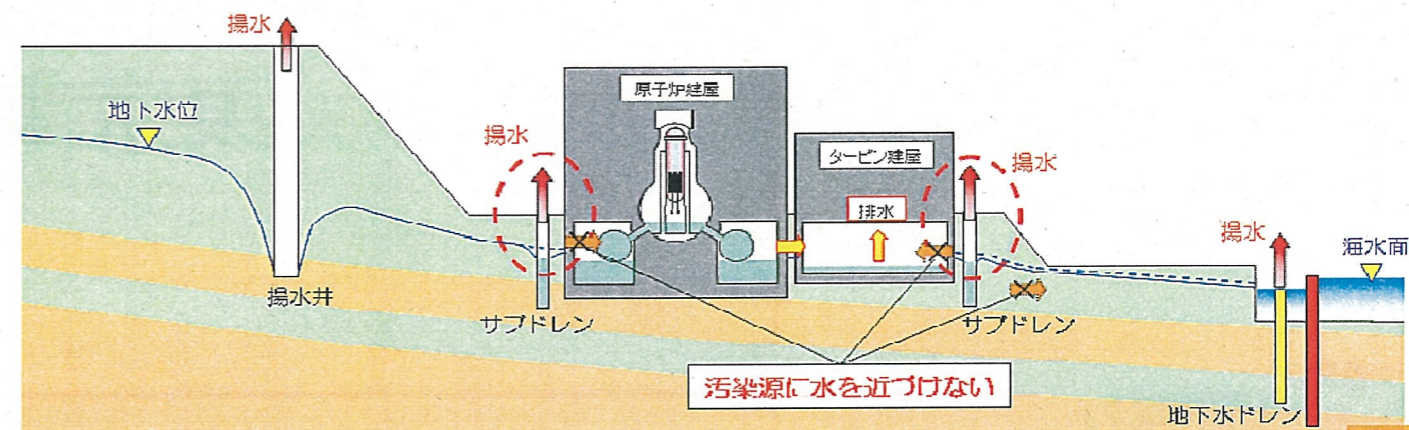


- ・建屋周りに遮水壁を設置することによって、建屋内への地下水流入による汚染水の増加を抑制できます。
- ・2014年3月より小規模凍土壁の凍結を開始し、小規模凍土壁が造成されていることを確認しました。
- ・2014年6月2日より、凍結管設置の為の削孔作業(掘削工事)を開始しました。

<小規模凍土壁の状況>

## 対策③ 原子炉建屋等への地下水流入抑制・・・サブドレンからの地下水くみ上げ

- ・サブドレンを復旧させて、建屋周辺の地下水をくみ上げることにより、建屋内への地下水の流入を抑制します。



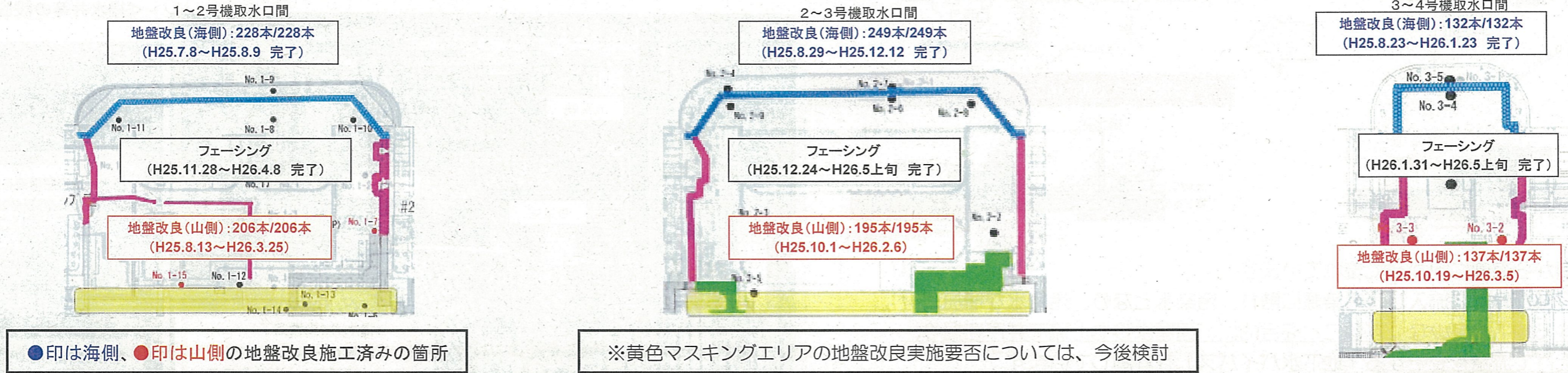
## (2) 汚染水対策の概要<緊急対策>

緊急対策として「汚染水の港湾への流出防止」「汚染源除去」「汚染水増加の抑制」を目的とした3つの対策を順次実施しております。

- 対策①** 港湾への流出防止・・・汚染エリアの地盤改良・地下水くみ上げ・地表舗装【漏らさない】【近づけない】
- 対策②** 汚染源除去……………トレンチ内高濃度汚染水の除去【取り除く】
- 対策③** 汚染水増加の抑制・・・建屋山側の地下水くみ上げ(地下水バイパス)【近づけない】

### 対策① 港湾への流出防止・・・汚染エリアの地盤改良・地下水くみ上げ・地表舗装

護岸エリアで確認された高い濃度の汚染水が港湾に流出することを防止するために地盤改良等を実施済みです。



### 対策② 汚染源の除去・・・トレンチ内高濃度汚染水の除去

護岸エリアのトレンチ(地下トンネル)内に残る高濃度の汚染水を除去するための取り組みを実施。

#### 主トレンチ・対策の概要

【ステップ1】 トレンチ内の浄化

平成25年11月開始

【ステップ2】 建屋接続部を凍結止水

凍結管施工中

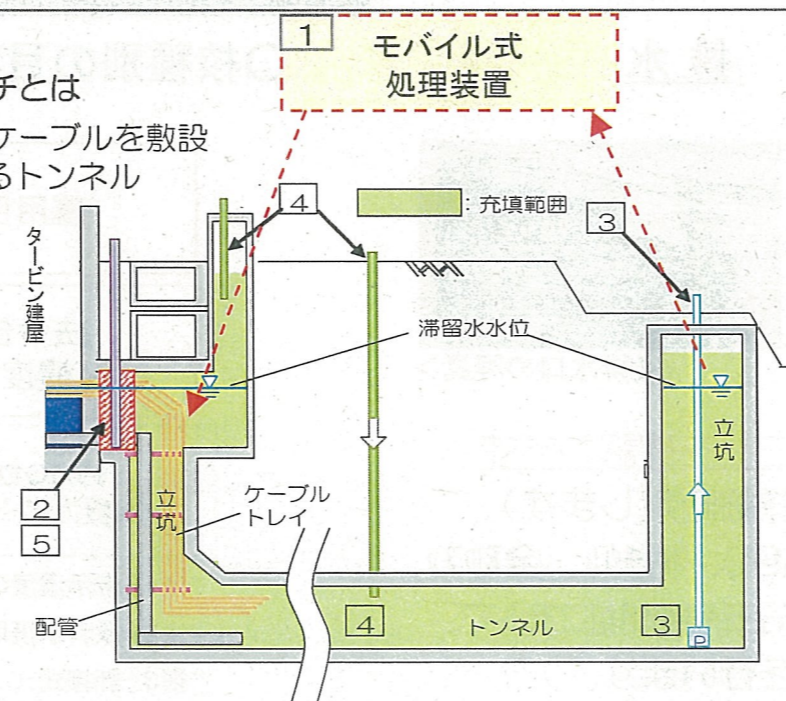
【ステップ3】 主トレンチ内汚染水を除去

【ステップ4】 主トレンチ立坑充填

【ステップ5】 建屋接続部の解凍、充填

※トレンチとは

配管やケーブルを敷設しているトンネル



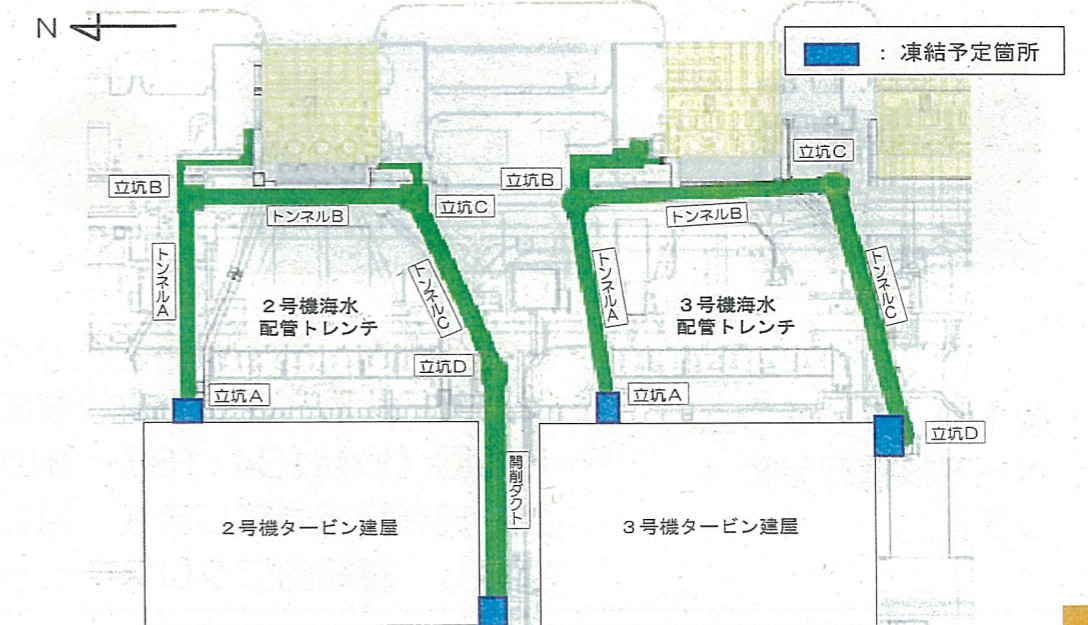
#### 【ステップ2】 凍結止水の進捗

○2号機

・4月より一部凍結運転を開始し、現在、凍結作業中。

○3号機

・5月より凍結設備設置用の削孔を開始。



# (3) 地下水バイパスの運用について 対策③

## (I) 地下水バイパスの目的・設備概要

### 地下水バイパスの目的

**現状**

地下水の流れ (山側→海側)

**稼働後**

建屋に入る前に地下水を汲み上げ海に排水

地下水の流入量を減少させる

水処理

原子炉建屋 タービン建屋

透水層 難透水層

地下水の流れの方向

地下水の流入

地下水は、山側から海側に向かって流れています。その地下水の一部が建屋に流入し、汚染源に触れ、汚染水となり、汚染水が増加。  
建屋内へ流入する地下水を少なくすることを目的に、建屋よりも上流で井戸を掘り、地下水を汲み上げて流路を変更する「地下水バイパス」を計画しています。

### 地下水バイパスの設備概要

- 建屋上流に12本の井戸（揚水井）を設置
- 揚水した地下水は、専用の配管で、専用のタンクに運び一時貯留
- タンク貯留水の水質を分析し、基準とする値（運用目標）未満であることを確認の上、排水

<揚水井等の設置状況>

海

山

A系統

B系統

C系統

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

- : 揚水井 (設置完了)
- : 配管ルート (施工完了)
- : 一時貯留タンク (施工完了)

揚水井は密閉構造を採用

専用の配管・タンクを設置

## (II) 地下水バイパスの水質確認方法

### 排水前の水質確認

揚水井(井戸) → 一時貯留タンク → 排水

確認

<排水口の写真>

- ・週1回、トリチウム、ベータ核種を分析します。
- ・排水の都度、運用目標未満であることを確認します
- ・10日に1回（全ベータ放射能を詳細測定します）
- ・月1回（セシウム134・137、ストロンチウム90、トリチウム、全アルファ、全ベータを詳細測定します。当社と第三者機関において実施し、継続的にクロスチェックを行います。）

### 排水における運用目標(自主基準)

○核種別の目標値

	セシウム134	セシウム137	全ベータ放射能	トリチウム	法令告示濃度に対する割合の和
運用目標	1	1	5	1,500	0.22 <sup>※3</sup>
法令告示濃度 <sup>※1</sup>	60	90	30	60,000	—
WHO飲料水水質ガイドライン <sup>※2</sup>	10	10	10	10,000	—

※1 告示濃度の水を毎日約2リットル飲み続けた場合でも、年間被ばく量約1ミリシーベルト  
 ※2 飲料水摂取による年間被ばく量約0.1ミリシーベルト  
 ※3 計算式: 0.22 = 1/60 + 1/90 + 5/30 + 1,500/60,000

### (Ⅲ) 排水実績・水質分析

#### これまでの排水実施状況

	排水日	排水量		排水日	排水量
第1回	5月21日	561m <sup>3</sup>	第11回	7月20日	1,820m <sup>3</sup>
第2回	5月27日	641m <sup>3</sup>	第12回	7月26日	1,963m <sup>3</sup>
第3回	6月2日	833m <sup>3</sup>	第13回	8月1日	2,140m <sup>3</sup>
第4回	6月8日	1,563m <sup>3</sup>	第14回	8月5日	2,007m <sup>3</sup>
第5回	6月14日	1,443m <sup>3</sup>	第15回	8月12日	2,123m <sup>3</sup>
第6回	6月20日	1,765m <sup>3</sup>			
第7回	6月26日	1,829m <sup>3</sup>			
第8回	7月2日	1,858m <sup>3</sup>			
第9回	7月8日	1,725m <sup>3</sup>			
第10回	7月14日	1,790m <sup>3</sup>			

※当社・第三者機関ともに運用目標を満たすことを確認しております。

#### 水質分析結果(月1回の詳細分析)

平成26年6月分加重平均サンプル  
(平成26年8月5日結果公表)

単位: Bq/L	東京電力	第三者機関	運用目標	法令告示濃度	WHO飲料水 水質ガイドライン
セシウム134	0.0066	0.0074	1	60	10
セシウム137	0.015	0.015	1	90	10
全アルファ	ND(2.5)	ND(2.9)	—		
全ベータ	ND(0.78)	ND(0.63)	5		
トリチウム	160	150	1,500	60,000	10,000
ストロンチウム90	0.0088	0.013	—	30	10

### (Ⅳ) 広くご理解いただくために

#### 当社ホームページでの情報発信(改善)

#### 原子力規制委員会ホームページ

#### 海外への情報発信

- ・当社ホームページの改善: モニタリング結果のトップページに航空写真を掲載するとともに結果を図面表記に変更し、モニタリング地点の位置関係を明確化。
- ・原子力規制委員会ホームページでの広報: 関係各所(環境省・規制庁・水産庁・福島県・東京電力)のモニタリング結果をまとめて掲載。
- ・海外への情報発信として、韓国大使館(3回実施)や中国大使館(2回実施)など各国大使館にてご説明を行っております(昨年8月以降26回、15カ国に説明実施)

# 【参考】海域モニタリングの状況

港湾内（シルトフェンス外側）・港湾境界付近・周辺海域の海水中濃度はほぼ検出限界値未満で影響は限定的です。

## ○港湾内における海域モニタリング地点

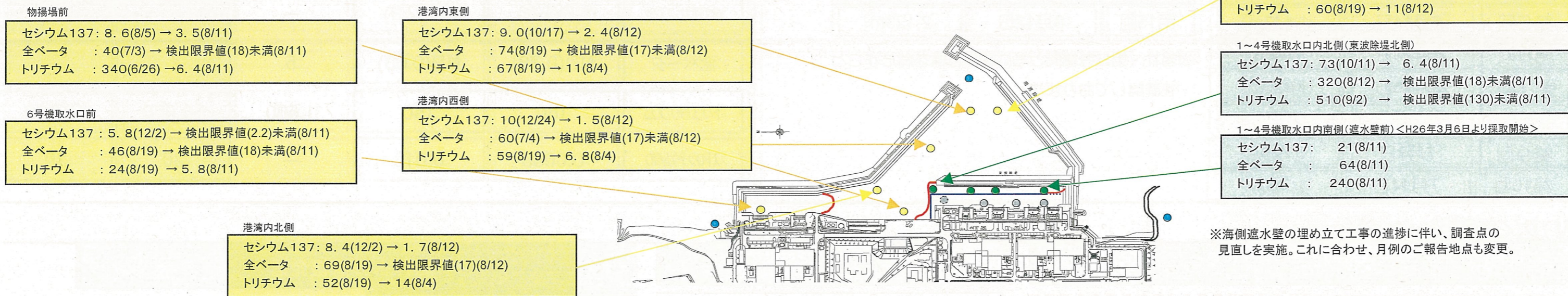
(各数値:H25年度の最大値 → 至近の測定値)

※( )内日付は採取日 ※単位:ベクレル/リットル ※ND:検出限界値未満

○分析項目および測定頻度

- ・トリチウム、セシウム、全ベータ: 1回/週
- ・ストロンチウム: 1回/月

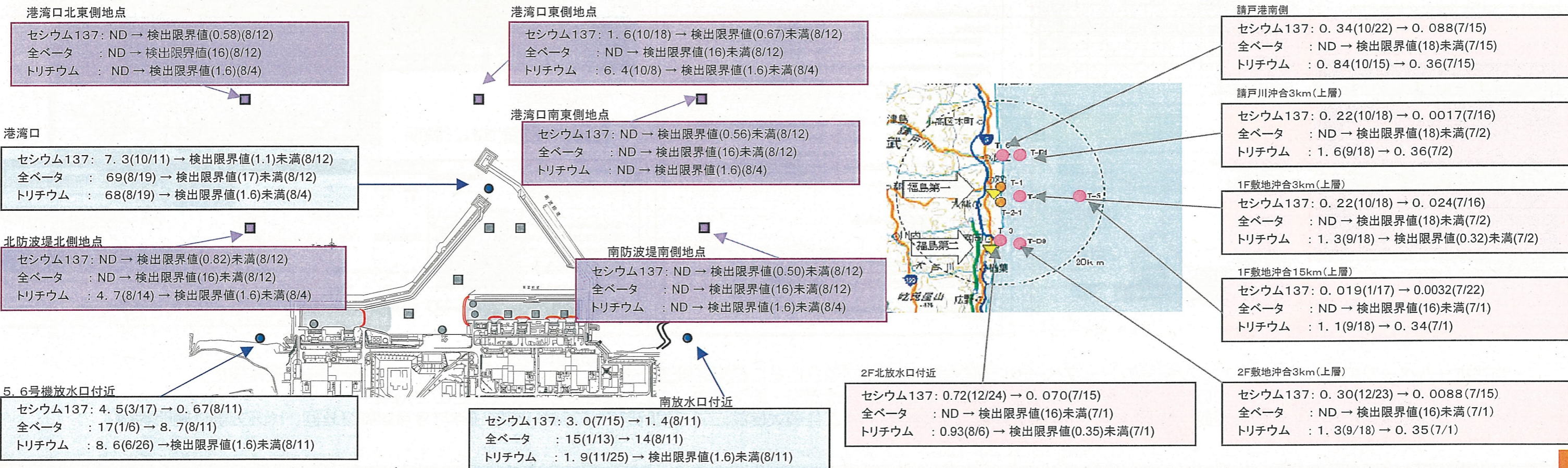
- 海洋への影響をモニタリング
- 港湾内の放射能濃度の分布をモニタリング
- 港湾内への影響をモニタリング(地点抜粋)



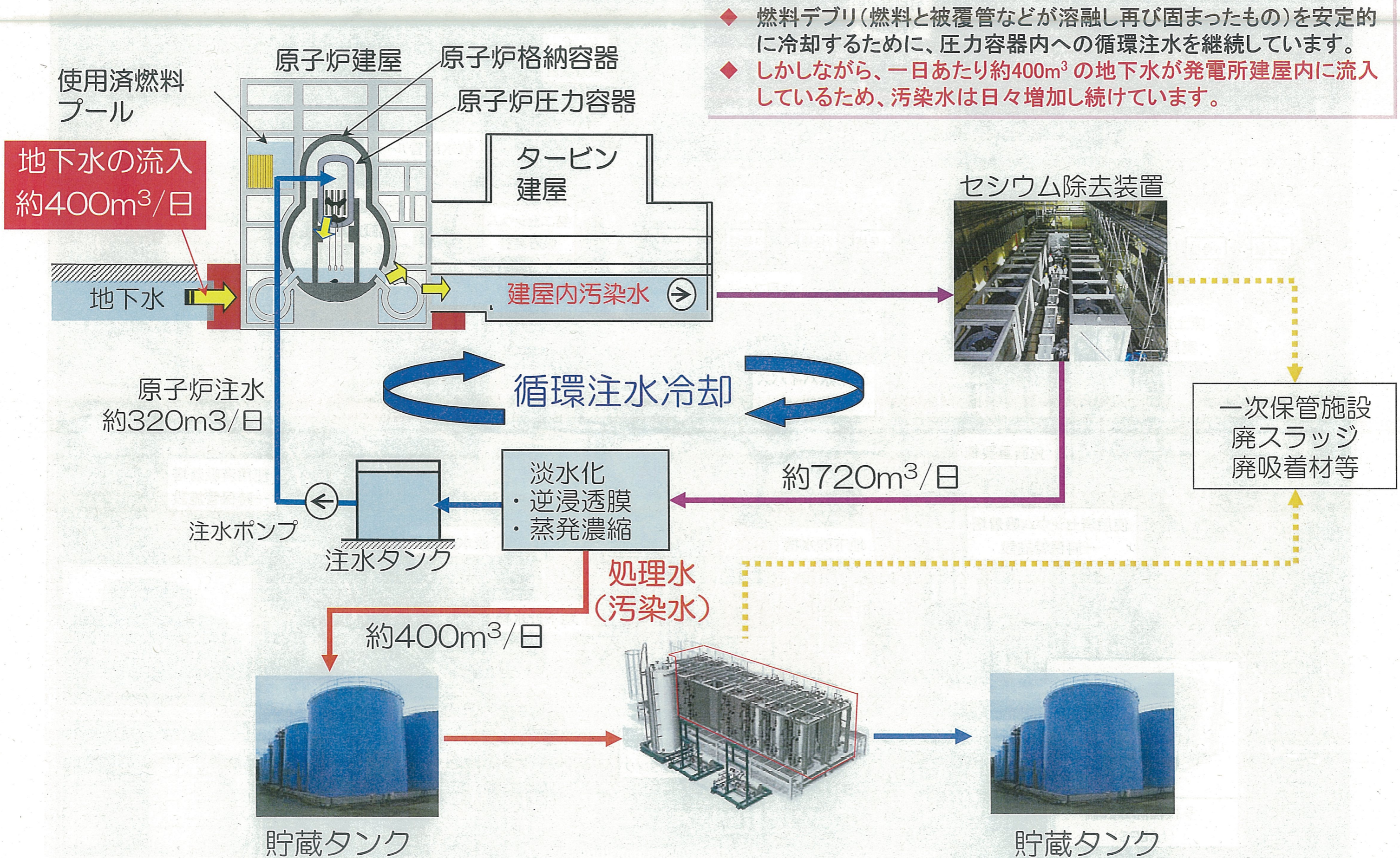
※海側遮水壁の埋め立て工事の進捗に伴い、調査点の見直しを実施。これに合わせ、月例のご報告地点も変更。

## ○港湾境界付近・港湾外近傍における海域モニタリング地点

## ○発電所周辺海域モニタリング地点



# 【参考】 増え続ける汚染水と、原子炉の循環冷却



- ◆ 燃料デブリ(燃料と被覆管などが溶融し再び固まったもの)を安定的に冷却するために、压力容器内への循環注水を継続しています。
- ◆ しかしながら、一日あたり約400m<sup>3</sup>の地下水が発電所建屋内に流入しているため、汚染水は日々増加し続けています。

【参考】福島第一原子力発電所 構内配置図

